

場面1-A. 子ども時代、道端で・・・

ざあくん 「ボクは背の小さいざあくん。ぼくは小さいから、みんなは、ぼくのことをばかにするんだ。いつか見てろよ、ぼくは頭がいいから、ぜったいに見返してやる。

ざあくん 「あれ？あれあれあれれれ、これは！！ 新しいゲーム機だよ。これ、売り切れてて、この辺じゃあ、だれも持っていないんだよ。」

(間)

友だちA 「ああああ、どうしよう。ぼくのゲーム機なくなっちゃったよ。この辺に落ちてないかな。ねえ、ざあくん、見なかったかい？」

ざあくん 「ギクッ！ う～ん、ぜんぜんみなかったよ。」

友だちA 「ざあくん、なんかあわててて変だよ・・・大丈夫？・・・ まあそれどころじゃない。あっちを探そう？」
(少し間を置く)

ざあくん 「ああ～～～！ うそついちゃったよ。どうしよう？
でも、しかたがない、小さいうそだ、たいしたことないさ。」

ハルター 「その時、ざあくんの心から、かけたらがポロリと落ちました。」

場面1-B

ざあくん 「でも、これどうしよう。見つかったらやばいな。」

友だちB 「ざあくん、すげーなスーパーゲーム機を持ってるのか？
かっこいいなあ。」

ざあくん 「まあね。ニューヨークからおじさんが送ってくれたんだよ。」

ハルター 「またひとつ、心のかげらが落ちた。」

～～ 翌朝 ～～

場面1-C

みんな 「ざあくんさあ、あのさあ、そんでさあ(ヒソヒソ)ねえ」

友だちA 「ざあくん、ぼくのスーパーゲーム機を返してよ」

ざあくん 「ボク、知らない、知らない、知らないよ～～」

友だちC 「ざあくんは、嘘ついてるじゃん」

みんな 「うそつきざあくん、うそつきざあくん」

ざあくん 「なんだよ、なんだよ、そんなに悪く言わなくてもいいじゃんか。
みんなでボクを悪者にするなよ===！！」

ハルター 「ざあくんの心は、ドンドン崩れていきます。」

パワフルざあくん 「分かったよ、もうみんななんか、もう友だちじゃない。
おいらは税金取りになってやる。おれを馬鹿にしたこと、絶対に後悔させてやるからな！」

=====

場面2 友だちAの家

ざあくん 「さあ、今日も元気に、税金を取り立てよう。今日は、天気もいいからな。

税金のとりたて容赦はしないぜ。よし、この家からだ」

「おい邪魔するぜ！ 今日、貯まってる税金を、耳をそろえてしっかり払ってもらうからな。この家は・・・（メモを見る）、5000円だけど、

昔のうらみだ、仕返ししてやろう。・・・おい、この家の税金は5万円だぞ！」

おじいさん 「おおお、なんてことじゃ、そんな大金、ここにや～ありや～しませんぞ。それに、わしゃー、病気で寝込んでおりますしのお。ゴホゴホ」

ざあくん 「病気だの、老人だの、そんなことは関係ねえ。あの天下のローマ帝国がお決めになったこと、払っとうぜ。じゃあ、今日は、とりあえずこの布団を持っていくぞ。いいな。」

友だちA 「病気のおじいちゃんが、その布団がないと、こまっちゃうよ。

ざあくんさま、なんとかやさしい心で、どうにか頼みますよ。」

ざあくん 「ダメだ、ダメだ、税金を払うまで、この布団は預かっておくぞ」

場面3 友だちCの家

ざあくん 「よし、次はこの家だな。 よう、税金とりのざあくんだ。税金を取り立てに来てやったぜ。」

お母さん 「キャー、びっくりした！ ざあくん様。こないだもお願いしたとおりに、夫が商売で旅にでて、帰りましたら必ず払いますから。今日は勘弁して下さい。」

友だちC 「おねがいします。」

ざあくん 「なんだと！ そんな言い訳、もう聞き飽きたぞ。そうだ、あのツボと中の麦をもって行くぞ。」

友だちC 「やめてよ。それがないと、ごはんが食べられないよ」

ざあくん 「うるさい、さあいくぞ」

友だちCとお母さん 「ざあくんめ、えいっ！」

ざあくん 「いたい！なんだこのちびっ子は。」

場面4 ザアくんの家・夜

ざあくん 「ヘッヘッヘ、1デナリ、2デナリ、3デナリ、へへへへ・・・、オレ様、お金持ち。

みんな別にかまわないさ、税金を集めて・・・」

「・・・そういえば、変な噂をきいたぞ。何でもナザレ村のイエスさまって。

罪人や、オレのような税金取りにもやさしいそうさ。嫌われ者の心が救われるそうさ。

オレも、一回あってみたいな。だってオレも、心の中にぽっかり穴があいたように空しくなるんだ」

場面5 とおせんぼ

婦人 (kogawa) 「イエス様がきたぞー」「このエリコの町にいらっしゃったぞー」

ざあくん 「あのイエス様が…、ほんとかな？」

婦人 「ねえ聞いて、イエス様だよ …………… 」

ざあくん 「そうだ、オレも会いに行ってみよう。」

(町へ飛び出す)

友達A 「ああ、ザアくんだ、いやなやつが来た」

友達C 「そうだ、通せんぼしよう」 中央通路で、じゃまをする。

友達B 「おまえはダメだよ、イエスさまは、おまえなんかと会わないよ」

ざあくん 「困ったな、どうしよう… でもひと目みたい、そうだ、この木に登ってみよう。」

(イチジク桑の木に登る)

おじいさん 「あらあらあら、ざあくんが、木にのぼっちゃったよ。」

友達C 「ヘンだよね」

ざあくん 「あれ？ あの人がもしかしたらイエス様じゃないだろうか」

ゆっくりとイエスさま登場

イエスさま 「ざあくんよ、降りてきなさい。今日、あなたの家に泊まることにしているから。」

ざあくん 「えっ、イエスさま、わたしの家ですか？ わたしのような者のところでいいのですか？」

イエスさま 「そう、わたしは心を失った人と出会うために来たのだよ。」

ざあくん 「そうなのですか、イエスさま、さあ私の家はこちらです。」

*家に入る

場面6 家の中

友人A 「なんでイエスさま、あんなやつのところに行ったんだろ」

友人C 「変だよね。おかしいよね」

ナレーター 「ざあくんは、嬉しくなってイエスさまをお迎えして、食事でもてなしました。」

(間4秒) ……しばらくたつと

ざあくん 「イエスさま、あなたが来てくださって分かりました。ボクの心は壊れていたのですね。

ボクには罪がたくさんある。

悪いことを、償っていきたい。そうだ4倍にして返そう。新しい人生を歩みたいのです。

ナレーター 「イエス様は、じつとざあくんを見つめました。」

ざあくん 「イエスさま、これが私の心です。」

ナレーター 「ざあくんは、壊れた心を、イエス様に渡しました。イエス様は受け取り、

そこに十字架の恵みを注ぎました。すると、どうでしょう。ざあくんの心に命が回復したのです。」

イエスさま 「今日、救いがこの家にきました。私は心の失われた人を探し出して救うために来たのです」

ナレーター 「ざあくんのお話しは、今日はここまで、つづきはみなさんの心の中で、、、

イエスさまは、きみの心にも入りたいと願っているんだよ」

小道具

- ・ イチジク桑の木、ザアカイの家
- ・ 茶色の布、ひび割れハート
- ・ 人形 スマイルざあくん、パワフルざあくん、イエスさま、
- ・ 友だち A,B,C
- ・ A の家族、おじいちゃん C の家族、お母さん、少女 C

声の出演

役	声	人形係り	パペット割り振り
ザアカイ子ども			
ザアカイ大人			
友だち A 子ども			
友だち B 子ども			
友だち C 子ども			
おじいちゃん			
おかあさん			
イエスさま			
ナレーター			
婦人			